

2001年度実施研究会報告

2001年度より以下の3研究会が発足しました。

- 「アフリカ経済論の再構築」研究会
主査：平野克己 幹事：福西隆弘
内部委員：山形辰史
外部委員：高橋基樹 峯陽一 赤林英夫 西浦昭雄 須藤裕之
- 「第三世界の紛争と国家」研究会
主査：武内進一 幹事：山田紀彦
内部委員：井上恭子 酒井啓子 津田みわ 天川直子 荒井悦代
外部委員：川島緑 遠藤貢 落合雄彦 井上あえか 西芳実
- 「開発途上国の農産物流通：アフリカとアジアの経験」研究会
主査：高根務 幹事：児玉由佳
内部委員：岡本郁子 坂田正三 寶劍久俊
外部委員：児玉谷史朗 米倉尊 上田元 黒崎卓
いずれも、2002年度末に終了予定です。

2001年アジア研夏期公開講座

アジア研夏期公開講座が7月4日から24日まで開催され、本誌小特集にあるとおり、18日にアフリカ編として3講座を実施しました。

外部媒体での発表原稿

前号のアジ研通信ではアフリカ関連のアジ研刊行物を紹介しましたが、今回はアジア経済研究所のアフリカ研究者が外部の媒体で発表した原稿を紹介します。1999年から2001年6月までの情報です。

- 児玉由佳「エチオピアの皮革産業の現状と展望」『皮革科学』Vol. 46, No. 4, 2001年
- 佐藤章「ブルンジ」『アフリカを知る事典・増補版』平凡社, 1999年
- 「アフリカの社会学：表象の「アフリカ」、エスニシティ、回帰性」『情況』1999年12月別冊「現代社会学のトポス 社会空間への問い」情況出版, 1999年(同社刊『世界システムを読む』[2000年9月] pp. 285-298に採録)
- 「輸出用作物」国際農林業協力協会編『コートジボワールの農林業：現状と開発の課題

2000年版』, 2000年

- 「コートディヴォワール独立運動におけるアフリカ人農民組合(SAA)の役割：再検討の試み」『アフリカ研究』第56号, 2000年
- 高根務「小農生産における制度とインセンティブ：南部ガーナのココア生産における分益小作の事例から」『アフリカ研究』No. 54, 1999年
- 武内進一「ルワンダ」『アフリカを知る事典・増補版』平凡社, 1999年
- 「ツチとフツ」『アフリカを知る事典・増補版』平凡社, 1999年
- 「コンゴの農村開発—政策と社会の対応」山田陸男編『発展途上諸国の農村開発』国立民族学博物館地域研究企画交流センター(JCAS 連携研究成果報告¹⁾), 1999年
- 「終わらないコンゴ内戦」『世界』第674号, 2000年
- 「「アフリカ大戦」化するコンゴ内戦—その展開と構造」『NIRA 政策研究』Vol. 13, No. 6, 2000年
- 「『紛争ダイヤモンド』問題の力学—グローバル・イシュー化と議論の欠落」『アフリカ研究』No. 58, 2001年
- 「ルワンダからコンゴ民主共和国へ—広域化する内戦」総合研究開発機構(NIRA)・横田洋三共編『アフリカの国内紛争と予防外交』国際書院, 2001年
- 「コンゴ共和国(ブラザヴィル)の紛争—国家と私兵」総合研究開発機構(NIRA)・横田洋三共編『アフリカの国内紛争と予防外交』国際書院, 2001年
- 津田みわ「(第2部 冷戦終結後のアフリカの国内対立・紛争の展開と紛争解決への試み：事例研究) ケニア」総合研究開発機構(NIRA)・横田洋三共編『アフリカの国内紛争と予防外交』国際書院, 2001年
- 平野克己「南アフリカ」『最新世界現勢1999』平凡社, 1999年
- 「アフリカ経済と開発援助」『最新データ&キーワード日本経済』集英社, 1999年
- 「2回目の民主選挙とムベキ新政権の課題」『世界週報』Vol. 80, No. 26, 1999年
- 「アフリカにおける経済開発の現状と課題」

- 『国際資源』第295号, 1999年
- 「サブサハラ・アフリカにおける農業の現状と我が国の開発協力の展望」『国際農林業協力』Vol. 22, No. 6/7, 1999年
 - 「ターボ・ムベキ南アフリカ大統領」『次の10年に何が起こるか』新潮社, 2000年
 - (共著)『南部アフリカ援助研究会報告書』第1巻〈南部アフリカ地域編〉国際協力事業団, 2000年
 - 「第3章 経済情勢」『南部アフリカ援助研究会報告書』第2巻〈南アフリカ本編〉国際協力事業団, 2000年
 - 座談会「なぜ、日本は今アフリカを向いているのか」『外交フォーラム』No. 155, 2001年
 - 座談会「日本は貧困削減戦略ペーパーとどう向き合うべきなのか」『国際開発ジャーナル』No. 534, 2001年
 - 対談「アジアとアフリカの懸け橋に」『JICA フロンティア』No. 22, 2001年
 - 牧野久美子「南アフリカにおけるキリスト教会と政治」『国際政治』第123号(「転換期のアフリカ」特集), 2000年
 - 「南アフリカの選挙: 分裂社会と民主政治」『海外事情』2000年4月号(「アフリカの選挙と民主化」特集)
 - 望月克哉(共著)『南から見た世界 アフリカ』大月書店, 1999年
 - 「アフリカの政治・社会における新たなアクター」『国際政治』第123号, 2000年
 - 「(第2部 冷戦終結後のアフリカの国内対立・紛争の展開と紛争解決への試み: 事例研究) ナイジェリア」総合研究開発機構(NIRA)・横田洋三共編『アフリカの国内紛争と予防外交』国際書院, 2001年
 - 吉田栄一「第6章 都市問題」『南部アフリカ援助研究会報告書』第2巻(南アフリカ本編)国際協力事業団, 2000年
 - 「第6章 都市問題」『南部アフリカ援助研究会報告書』第3巻(モザンビーク本編)国際協力事業団, 2000年
 - Sato Akira, "Lemarchand's Self-Fulfilling Prophecy Reconsidered," Didier Goyvaerts ed., *Conflict and Ethnicity in Central Africa*, Tokyo: ILCAA, Tokyo

University of Foreign Studies, 2000.

- Takane Tsutomu, "Land, Labor and Gender in Rural Southern Ghana: A Case Study of Cocoa Producing Villages," *Journal of International Development Studies*, (『国際開発研究』)Vol.8, No.2, 1999.
- Takeuchi Shin'ichi, "Hutu and Tsuti: A Note on Group Formation in Pre-colonial Rwanda," Didier Goyvaerts ed., *Conflict and Ethnicity in Central Africa*, Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.
- ——, "Understanding Conflict in Africa: Reflections on Its Recent Characteristics," Kurimoto, Eisei ed., *Rewriting Africa: Toward Renaissance or Collapse*, Osaka: The Japan Center for Area Studies, National Museum of Ethnology, 2001.

海外通信

現在、以下の4名が、長期の海外調査を実施しております。

- 望月克哉(在ラゴス海外調査員): 最近、書店から足が遠のいています。着任当初は顔つなぎの意味もあって、定期的に主要な書店をまわるようになっていましたが、このごろは月一回程度になってしまいました。書店や店員に不満があるわけではありません。付き合いの長い店主などは、こちらの本探しの相談に乗ってくれるだけでなく、もはや流通していないタイトルを自身の蔵書から融通してくれたりもします。気に入らないのは棚に平積みで居座る書籍そのものです。発刊される頻度こそ落ちてはいませんが、その質はお世辞にも高いとは言えません。美しい装丁で目を引くのは、裏表紙に大きな顔写真と経歴を長々と記した著名人の出版物。大学の書店にうず高く積み重ねられているのは教科書に指定された薄っぺらな著作ばかり。輸入ビジネス書の洪水は現在の景気そのものと言えます。出版「冬の時代」は日本だけのことではありません。
- 吉田栄一(在ダーラム海外派遣員): 英国でも中心商店街の衰退は日本と共通していますが、郊外型大規模店や、アウトレットチェーンは好決算の記録達成中。当地の郊外ハイパーマーケットの店頭では南部アフリカの牛肉、ケニア・ジンバブエの花卉、アジア・アフリカ各地の青果が常設見本市のよう。高付加価値化に限界がある日本の産地と消費者のトレ

ンドをつかめない流通業界について、中国産しいたけとケニア産インゲンを炒めながら考えた一夜でした。(9月末からの1年間はウガンダ・マケレレ大学経済学部客員研究員となります。)

■佐藤章(在アビジャン海外派遣員):「コートディヴォワールの政治的安定の歴史的分析」という研究課題を携え、この6月末にアビジャンに着任いたしました。原口武彦、大林稔両氏がかつて籍を置かれた、大学付属機関である経済社会研究センター(CIRES)に客員として受け入れていただき、2003年6月まで当地での研究活動を許されています。国立公文書館(ANCI)にひたすらこもって行政文書と格闘することだけを願いとしてここまでやってきました。しかしながら、私がいったいなにものとして、滅却されかねない歴史的資料を惜しみ、この国の歴史の再構成に血道を上げるのか、説明してみろと言われればなにやらしどろもどろになるような気もしきりです。この謎を解くこともまた、この旅の研究課題として格闘せねばならないのかもしれない。

■牧野久美子(在ケープタウン海外派遣員):2003年8月までの2年間、海外派遣員としてケープタウンに滞在します。ケープタウン大学に籍をおき、南アフリカの労働政策や社会保障政策について、アパルトヘイト期からの断絶と連続性の双方に着目しつつ、研究を進める予定です。

これを書いているのは、赴任のちょうど10日前。引越荷物と格闘しつつ、徐々に実感が湧いてきたところです。本号が刊行される頃には、そろそろ家も見つかって落ち着き始めているでしょうか。今後も本欄で近況報告をして参りますので、どうぞよろしくをお願いします。

佐藤、牧野の両名が相次いで旅立ち、現在4名が海外に駐在している。夏は現地調査出張者も多いので、幕張のアフリカ空間は閑散としている。今号の編集幹事は児玉由佳が務めてくれた。その児玉がエチオピアから帰国して暫くは全員が日本にいたのだが、すっかり淋しくなった。

最近のアフリカの動きは分かり難い。カビラ暗殺後のコンゴ情勢はますます混迷を深めているし、自壊現象とも思えるジンバブウェの行く先はまったく見えてこない。一方、先回のOAUルサカ会議でOAUはアフリカ連合(AU)に再編されることになった。もうすぐ南アフリカでレイシズムに関する世界会議が開催されるが、そこには奴隷貿易に対する補償の要求が出される予定だ。

壊れていくものと新たに作り出されるものとの関係が分からないのである。アフリカ諸国独立以来良くも悪くもアフリカ世界を規定してきた構図が1990年代に崩れてしまってから、アフリカを理解するフレームワークが見出し難くなった。

そのような時代に4名の同僚を送り出した。現地社会の空気を呼吸している4人の感性を通じて、新世紀アフリカの土中の蠢動を感じたいと思う。『アフリカレポート』は彼らの目と耳を日本の学界にコネクトするインターフェースともなって、情報を発信していく。

ODAやわれわれ特殊法人の行方も明らかではない。「必要とされるアジ研」であるために、幕張組の任務も重い。

(平野記)

アフリカレポート 第33号

2001年9月29日発行 定価735円(本体価格700円)
編集・発行 日本貿易振興会 アジア経済研究所
編集 地域研究第2部
発行 研究支援部
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3-2-2
TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736